

3. プログラム

(1) 0日目：7月22日(月) 19:00～20:00 (オンライン)

現地での活動に向けて取り組んでいただきたい事前探究について説明します。

Zoom ミーティング URL: <https://bit.ly/202407OECzoom>

ミーティングID: 981 7251 2986 パスコード: 016333



(2) 1日目：7/29(月)

8:15	集合	@JR博多駅筑紫口 貸切バス駐車場
8:30	出発(大型バス)	※荷室に預けた荷物は夕方まで取り出せません。 貴重品と必要な荷物のみ車内にお持ち込みください。
9:45-	開会	@福岡市立勝馬小学校 開会挨拶 笹川平和財団 海洋政策研究所 所長 阪口 秀
9:50-	ご挨拶と取組紹介「われは、海の子～勝馬調査団～」	学校見学 福岡市立勝馬小学校 校長 田中 展史 さん
10:20-	実践報告[1]「玄海みらい学園 海洋教育の取組」	玄海みらい学園 副学園長 山口 孝治 さん
10:30-	実践報告[2]「自分事として捉える海の課題解決～うみぼす甲子園への応募を通して～」	鳥取県立青谷高等学校 教諭 中嶋 崇裕 さん
10:40-	実践報告[3]「きょういく海、明日も行こう」	屋代島さとうみネットワーク 代表 田中 貞徳 さん
10:50-	実践報告[4]「港区型ブルーカーボン実証実験「東京海洋大学 海街コミュニティ・スクール」について」	つなぐみ合同会社 代表 井上 寛美 さん
11:05-	移動(大型バス)・休憩	
11:25-	探究[1]「地域素材の教材化―海の学びにかかわる事例の紹介―」	@志賀島ビジターセンター 案内人：海と博物館研究所 所長 高田 浩二 さん
12:10-	移動(徒歩)	
12:20-	探究[2-1] @万葉歌碑 (志賀島第5号歌碑) 荒雄の碑・万葉歌碑 (志賀島第10号歌碑)	案内人：万葉愛好者 / 勝馬出身 木梨 菅子 さん
12:35-	移動(徒歩)	
12:45-	昼食	@満帆荘
13:40-	移動(小型バス)	
14:00-	探究[2-2] @万葉歌碑 (志賀島第4号歌碑)	案内人：万葉愛好者 / 勝馬出身 木梨 菅子 さん

14:05-	探究[3]「潮見公園展望台で志賀島を臨む（博多湾の活用について仮）」@潮見公園展望台
	案内人：国土交通省九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所 副所長 渡辺 祐二 さん
14:40-	移動(小型バス)
15:00-	探究[2-3] @万葉歌碑（志賀島第1号歌碑）
	案内人：万葉愛好者 / 勝馬出身 木梨 菖子 さん
15:05-	探究[4]「海神ノ総本社にまつわる歴史について」@志賀海神社
	案内人：志賀海神社 宮司 阿曇 幸興 さん
15:35-	移動(徒歩)・休憩
15:50-	探究[5]「金印の秘密」@福岡市立志賀公民館
	案内人：歩・歩・歩（さんぽ）会 顧問 古賀 偉郎 さん
16:25-	探究[6]「地域を育む海のいとなみ～志賀島をフィールドとした海の環境教育～」@志賀島公民館
	案内人：一般社団法人ふくおかFUN 大神 弘太郎 さん
16:55-	移動(大型バス)
17:15-	チェックイン@志賀島休暇村
17:30-	ふりかえり@万葉の間
	ファシリテータ 海と博物館研究所 所長 高田 浩二 さん 笹川平和財団 海洋政策研究所 客員研究員 日置 光久
18:30-	夕食 @食堂
20:00-	懇親会 @万葉の間
21:30	1日目終了

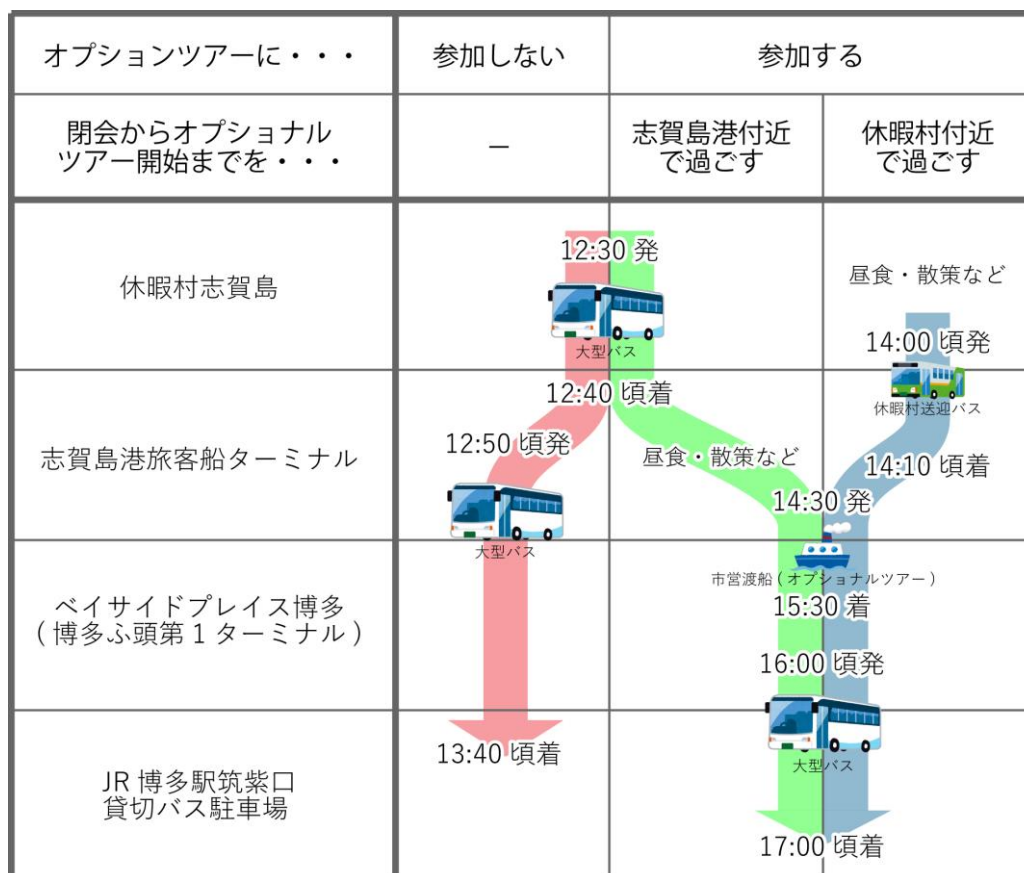
※荒天の場合、探究[2-1]は志賀島ビジターセンターにて、探究[2-2]～探究[6]は福岡市立志賀公民館にて実施いたします。

(3) 2日目：7/30(火)

7:30	朝食 @食堂
9:00-	ワークショップ@万葉の間 ※お荷物を全て持ちチェックアウトできる状態でお集まりください。
	ファシリテータ 海と博物館研究所 所長 高田 浩二 さん
11:45-	総括 笹川平和財団 海洋政策研究所 客員研究員 日置 光久
12:00	閉会 閉会挨拶 日本財団 海洋事業部 古谷 悠真 記念撮影

(4) 閉会後の移動について

閉会後の移動方法は以下の図をご確認ください。



※オプションツアーに参加される方は、ツアー終了まで不要な荷物を大型バスにお預けください(貴重品を除く)。16:00頃にベイサイドプレイスを出発する大型バスは、12:30に休暇村志賀島を出発する大型バスと同じバスです。

※オプションツアーに参加されない方で、休暇村志賀島より自家用車等でお帰りいただく場合は、閉会后そのまま解散となります。

(5) オプションツアー

オプションツアーに参加される方は、出発までに各自で昼食を済ませてください。

- 14:30 出発 @志賀島港旅客ターミナル (市営渡船でアマモ場や港湾施設等の見学)
 案内人 九州大学 名誉教授 / 福岡市博多湾NEXT会議 会長 川口 栄男 さん
 案内人 国土交通省九州地方整備局 博多港湾・空港整備 所長 苔口 聖史 さん
- 15:30 到着 @ベイサイドプレイス博多(博多ふ頭第1ターミナル)
- 16:00頃 移動(大型バス)
- 17:00頃 解散 @JR博多駅筑紫口 貸切バス駐車場

※すべてのプログラムは、天候や道路等の状況により変更になる場合があります。

9. 実践報告

「われは、海の子～勝馬調査団～」

福岡市立勝馬小学校 校長 田中 展史 さん

勝馬小学校は県北西部、志賀島北部（福岡市東区）に位置する学校です。志賀島は、砂州により本土と陸続きになった周囲約11km、面積約5km²キロメートルの島で、古代から大陸への海上交易の出発点であり金印が見つかった地としても有名です。学校の周りには、豊かな里山・里海が広がり、海の神様を祀る神社や古墳・万葉集歌碑など多くの魅力に溢れ、豊かな自然環境やへき地・複式学級・小規模校の特性をいかす特色ある教育に取り組んでいます。海にかかる教育活動（カヤック学習、海岸清掃等）を『勝馬の海に、かかわる・つながる・まなぶ！』をキーワードにした主体的な海の学びを進めています。



sites.google.com/fuku-c.ed.jp/elkatuma/

PSP 採択歴：2024 単元開発部門

「玄海みらい学園 海洋教育の取組」

玄海みらい学園 副学園長 山口 孝治 さん

平成29年に東京大学海洋アライアンス海洋教育推進研究センターとの連携のもと「海洋教育」に取り組み始めた。今年度で8年目であり、この間「海に親しみ 海を知る みらいにつなげる海からの学び」という基本理念を継承してきている。この理念を1年生から9年生の発達段階にあてはめ、本年度も学習の主目的を設定し、実践を行っている。主目的は、次のとおりである。1、2年生は、身近な海との心的な距離を近くすること。3～5年生は、各教科等の学習と海洋学習とを関係づけることで、それぞれの学びを深めること。6年生～9年生は、各教科等で培った知識や力を使って、海洋を窓口に望ましい未来像を描くこと。



www.education.saga.jp/hp/genkai-mirai/

PSP 採択歴：2024 地域展開部門・2019 単元開発部門・2018 地域展開部門・2017 単元開発部門

「自分事として捉える海の課題解決～うみぼす甲子園への応募を通して～」

鳥取県立青谷高等学校 教諭 中嶋 崇裕 さん

学びの過程で生徒の主体性を育み、地域の課題を自分事として捉え、解決のために何ができるか考えるきっかけを作りたい。さらに生徒自身が成長を実感できる機会も必要。その思いから毎年地域貢献として実施してきた海岸清掃を海の課題解決の方策を考える学習と捉え直し、「うみぼす甲子園」の予選に応募しました。その結果、決勝進出。活動内容やプレゼンが評価され、ソーシャルアクション賞を受賞しました。お伝えするのは①総合学科特有の教科「産業社会と人間」と「公共」の教科間連携で進めた学習、②観光地・鳥取砂丘海岸で企画した海ごみ拾いとその展示説明、③公共施設・大学との連携、④企画における生徒の変容、⑤今後の展望です。



www.youtube.com/watch?v=QQhoUJuTwQw&t=1129s

「きょういく海、明日も行こう」

屋代島さとうみネットワーク 代表 田中 貞徳 さん



海に囲まれ、瀬戸内海で三番目の広さのある島、屋代島（周防大島町）で海に関係する活動をする任意団体、屋代島さとうみネットワーク。

活動をする中で海洋教育を勧められるも、当町の小中学校は海への関心の無さか、希望する学校は無く、つてを頼りに本土側の山間部にある小学校での支援が始まる。

まずは、海関係の施設見学や、昨今問題の海ごみ、磯の生物観察さらには、潮流の速い瀬戸でその流れを体感し、このエネルギーを取り出せないか、実験装置で豆電球を点灯させた。

今後は、瀬戸内海で唯一の海域公園に指定された場所で、ニホンアワサンゴを中心とした山、川、里、海の繋がりの重要性を体感しながらの学習に取り組んでいく。

www.facebook.com/100008143149310

「港区型ブルーカーボン実証実験「東京海洋大学 海街コミュニティ・スクール」について」

つなぐみ合同会社 代表 井上 寛美 さん



東京海洋大学 水圏環境教育学研究室では、2023年にクラウドファンディングにより263万円の資金を調達し、全国に「水圏環境教育」をベースとしたコミュニティ・スクールを広げる「東京海洋大学 海街コミュニティ・スクール」を発足しています。

今年度より、港区から「ブルーカーボン実証実験」を、本コミュニティスクールに委託を予定しており、地域コミュニティを構築し「港区型ブルーカーボン実証実験」を予定しています。

水質改善が難しいとされている港区高浜運河（品川駅から徒歩10分ほど）を研究の場として、都会ならではの「ブルーカーボン」について、地域みなさんと高浜運河で実証実験していく取り組みです。

ocean town.jp

10. 講師・案内人紹介

高田 浩二 さん 海と博物館研究所 所長 1976年 東海大学を卒業し大分マリンパレス入社、民営水族館初の教育普及担当学芸員に。1988年 マリンワールド海の中道設立に携わる。1998年 ISDN回線を用い遠隔授業開始。2004年 国立民族学博物館客員教授、マリンワールド海の中道館長就任。2005年「水族館における海洋教育の役割の研究」で博士号取得。2007年 文部科学省博物館法改正委員、2008年同省中央教育審議会委員。2015年 福山大学生命工学部教授、2019年「海と博物館研究所」設立。2019年にも文化庁博物館部会員を歴任して博物館法改正に関わり「博物館としての動物園水族館の在り方」等を執筆。趣味は水族館・博物館巡りで、半分は実益を兼ねる。 facebook.com/koji.takada.984	田中 展史 さん 福岡市立勝馬小学校 校長 令和4年度、勝馬小学校に着任し、笑顔と感謝の心があふれる児童の育成を目指した学校経営に取り組んでいます。史跡を見ることが好きで、勝馬地区には多くの歴史遺産があるので時間があるときに回っています。教師生活は28年目を迎えます。一人の教師として“今日の自分よりも明日の自分、明日よりも明後日の自分の方が成長できる”ということを大切にしてきました。本校の子ども達にも『昨日の自分をこえてゆけ』という話をしています。子ども達が自分の未来を創り出せるよう、校長として取り組んでいるところです。 sites.google.com/fuku-c.ed.jp/elkatuma/
木梨 菅子 さん 勝馬出身 ・1943年生 ・志賀島勝馬出身 ・職業：易学鑑定（四柱推命学） ・郷土史家 梶島好之に志賀島の万葉歌と歴史を学ぶ（2003年～2005年） ・志賀島歴史研究会所属（2006年入会～2019年解散） ・研究会にて二松学舎大学名誉意教授 大谷光男先生にご縁をいただき、今日もお元気な声に接している。先生のご指示に従い、2023年10月新華社通信東京支局の金印取材に際し、ボランティアガイドを務めさせていただいた。	古賀 偉郎 さん 歩・歩・歩（さんぽ）会 顧問 仕事人間で全国を飛び回っていたが、博多祇園山笠に”山のぼせ”ていた博多に戻ったのち金印に魅せられていく。さらに志賀島の歴史に興味を持ち、その奥深さにのめり込む。志賀島歴史研究会では金印シンポジウムなど多数開催した。2009年4月に東区歴史ガイドボランティア連絡会、愛称「歩・歩・歩（さんぽ）会」を設立。史跡を巡る町歩きや歴史講座など、福岡市東区の歴史や文化・伝統を伝える活動を行っている。地域の小学生と一緒に香椎地区の町歩きを楽しんでいる。 sanpokai.tank.jp

あずみ こうき
阿曇 幸興 さん

志賀海神社 宮司

幼少期より父と海釣りを楽しみ、ラグビー三昧の日々を送っていた。

高校1年生の頃、神社を継いでいた伯父の急逝により正式に神社を継ぐことが決まる。

四年制大学を卒業後、國學院大學にて神職資格を取得し、太宰府天満宮での5年間奉仕を経て志賀海神社へ戻り、令和6年4月に宮司職に就く。

一次産業が衰退してきている今こそ、次世代に豊かな海を残すために、海神の総本社として何ができるのか、先人たちが残してきたお祭りや伝統文化をヒントに現代に生きる神社の在り方を日々考えている。最近はフルボ酸鉄の活用やアマモ場再生などに関わることも。憧れの人はさかなクン。

▶ www.shikaumi-jinja.jp/



おおがみ こうたろう
大神 弘太郎 さん

一般社団法人ふくおかFUN
代表

大学在学中に訪れた西表島で、人々が島の自然を守るため懸命

に努力する姿に感銘を受け、「自然伝承」を人生のテーマに掲げる。

その後、ダイビングインストラクターの資格を取得し、25歳の時に「自分自身の目で世界中の自然を体感したい」という思いから、世界各地を渡航する。2014年12月、活動の中心を福岡・博多湾に置いた一般社団法人ふくおかFUNを設立。豊かな自然を守り伝えていくため、生物多様性の保全や気候変動対策に取り組む。授業や講演・シュノーケリング体験・藻場造成・海洋ごみ回収など「ダイバーだからこそ」の視点を軸として、多様な主体と連携しながら公益性を伴った活動を行っている。「全国アマモサミット2023 in ふくおか」の実行委員長を務めた。

▶ fun-fukuoka.or.jp/



こけぐち きよし
苔口 聖史 さん

国土交通省 九州地方整備局
博多港湾・空港整備事務所 所長

1975年7月7日生。東京大学大学院を平成12年に卒業し、同年運輸省（現国土交通省）入省。

九州地方整備局は、平成17年4月～19年7月に港湾計画課、24年4月～27年11月で港湾物流企画室で二度程勤務経験あり。居を福岡市内に構え、9年ぶりに三回目の勤務。

▶ www.pa.qsr.mlit.go.jp/hakata/



わたなべ ゆうじ
渡辺 祐二 さん

国土交通省 九州地方整備局
博多港湾・空港整備事務所 副所長

宮崎県佐土原町出身。長崎大学工学部卒業後、平成2年に運輸

省第四港湾建設局（現国土交通省九州地方整備局）に入省。運輸省港湾局計画課、九州地方整備局港湾空港部港湾計画課、同企画部企画課、博多港や長崎港、熊本港の事務所において、港湾・空港の計画、設計、現場監督業務を担当。在カンボジア日本国大使館ではODAによるインフラ整備等の経済協力、唐津市みなとまちづくり室では賑わいを創出するためのソフト、ハードの取組みを担当。現在4回目となる博多港勤務で、浚渫土砂を有効利用した窪地の埋め戻しなどにより、海域環境の改善効果を検証しつつ港湾整備を進めている。

▶ www.pa.qsr.mlit.go.jp/hakata/



かわぐち しげお
川口 栄男 さん

九州大学名誉教授
博多湾NEXT会議会長



1950年北海道札幌市生まれ。

専門は海藻学。北海道大学理学

研究科植物学専攻修士課程時代に岩手県大槌町の
東京大学大槌センターで海藻調査に従事。修了
後、北海道大学同研究科同専攻博士後期課程に進
学し単位取得退学。九州出身の恩師の縁で1987年
九州大学農学部助手に採用、同時に理学博士（北
海道大学）の学位を取得。海藻学の研究と学生指
導一筋にフィールドワークに最も情熱をもって取
り組む。現在も博多湾や周辺海域を中心に調査を
継続、「博多湾方式」と名付けたアマモの株移植法
を工夫しアマモ場再生に取り組む他、地元の高等
学校理科教員、生徒らと海藻図鑑作りなどの活動
を展開している。

➡ [www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/kankyotaisaku/
shisei/hbn_index.html](http://www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/kankyotaisaku/shisei/hbn_index.html)

ひおき みつひさ
日置 光久 さん

笹川平和財団 海洋政策研究所
客員研究員
(元文部科学省 視学官)



1955年鹿児島県に生まれる。

鹿児島大学理学部卒業後広島大学大学院で教科教
育学（理科教育学）を学ぶ。広島大学、広島女子
大学で研究者として過ごした後、文部省/文部科学
省の教科調査官、視学官として行政官（カリキュ
ラム・スペシャリスト）として仕事をする。2008
年改訂の『学習指導要領理科編』の作成において
中心にかかわった。東京大学に移り、我が国の
海洋教育の基盤づくりに奔走する。退職後、学校
法人希望が丘学園 学園統括顧問、大日本図書株
式会社 顧問、公益社団法人日本シェアリングネイ
チャー協会 代表理事として、我が国の理科教育、自
然体験・環境教育/海洋教育の発展にかかわる。

➡ www.naturegame.or.jp/